

ほたるの里だより



八千代市ほたるの里づくり実行委員会

第17号 2007年4月

ホタルメイトからのお便り

ただ今「ホタルの里親奮闘中」 山口 照雄

昨年11月、源右衛門祭りに参加して、加藤会長にお会いした。やはり話題は「ほたるの里」。「今年の夏のホタル鑑賞会では参加者400人でホタルが10匹、寂しいですね！ネックは何ですか」と切り出すと、会長も「そうですね、ほたるの里もこのままではいけませんね。」と悩んでおられる様子だったが、突然「ホタルを飼ってみませんか」と言われた。「我が家の狭い庭にホタルが飛ぶ？あり得ない話」と思いつつ「素人でも飼えるのですか」などと、話を繋いでいた。

11月18日は、かなり寒かったがよく晴れた年内最後の「ほたるの里環境整備」の日であった。里の中の草取りや枯れ枝の始末も終えたところで、会長は、虫かご位の水槽を足元に3つ並べて、「それでは、お約束を

した方達にホタルをお渡しします」と言って、3人のメイトを指名された。水槽には、小さくて黒いホタルの幼虫が30匹くらいずつ入っていて、もそもそと動いている。なんとも見栄えの悪い奴らだ、腹の横のヒレが足のように見えて、まるでムカデかゲジゲジみたいだ。

確かにあの時「No」とお断りした覚えもないが、「ホタルを養殖するなんてできるのかな」「『清水に住みカワニナを食べる』程度の知識しかない僕に育てられるのかしら」「ここで幼虫を預かったら責任は重いぞ」と様々な思いがめぐった。

それでも加藤会長は僕がたじろいでいることなど気にも留めずに「忙しい私が面倒見られるのですから、そう難しく考えることはありませんよ」と微笑をたたえながら、15分ほどで飼育のポイントを説

明されて、最後に「失敗しても構いませんよ」と一言添えてくれた。帰りしなにはほたるの里からカワニナを4匹とカワニナの貝殻数個を水槽に入れて帰った。「餌」として連れてきたカワニナに「最後の晩餐」を与えようと、白菜を水槽にちぎって入れたが、カワニナはおのれの運命を知ってか、白菜を食べようとはしなかった。3～4日して水に臭いが出てきたので白菜は捨てた。「カワニナをつぶす」のが嫌で、ホタルに餌を与えないまま1週間が過ぎた。

桑波田さんが「ホタルは蒲鉾でも食べるわよ」と

言っていたのを思い出し、とりあえず「かにもどき」の蒲鉾を小さく裂いて入れてみた。なるほど、すぐさまホタル数匹が「かにもどき」に群がった。数日後に水が濁り臭いが出てきた。蒲鉾はほとんど減っていなかったもので、水を取り替えて蒲鉾を捨てた。今度はホタテがあったのでこれも小さくして入れてみた。「ホ

タテだぞ、かにもどきより高級だぞ」と言い聞かせたが、水を濁らせるだけでやはり食べなかった。

仕方がなくサカマキガイを採ってくることにした。花輪川へ行けばサカマキガイがいるということも桑波田さんから教わっていた。正直なところ、未だサカマキガイの本物を見たことがないのだが、花輪川へ行けば何とかなるだろうと行ってみた。「およそ3～5ミリくらいの巻貝だ」という話だけを頼りに水中を覗んでいたら、しばらくして浅瀬や水草の隙間に焦げ茶色の小さな貝を見つけた。「これだこれだ」とペットボトルに7～8匹入れて持ち帰る。

焦げ茶色をした元気なサカマキガイが5日もしたらいなくなってしまう、水槽の底には薄茶色になった抜け殻だけが沈んでいた。心なしかホタルの幼虫が急に大きくなったように見えた。 →2ページへ



写真：平成19年3月3日（土）ほたるの里環境整備

それからというものの半月に1度のペースで天気のよい日に花輪川へサカマキガイを採取に通う。浅瀬の水草も少しばかり持ち帰った。水草にユスリカの卵や幼虫が付いてきてしまい、気づかずに水槽に入れたから、やがてユスリカが羽化して飛び回った。サカマキガイは4～5日で貝殻だけを残していなくなる。ホタルの姿も極端に少なくなった。空のカワニナの貝殻をスポイトで吸い上げてみたら、ホタルの幼虫が4～6匹ずつ出てくる。たまに幼虫が脱皮したカスらしきものもあるが、死骸はないのでみんなカワニナの貝殻に潜り込んでいるのだろう。水槽の底には大量の糞が溜まる。カワニナの糞もあるのかも知れないが、多分ホタルの糞だろう、みんな元気であるようだ。 ㄦ

横須賀見学会で思ったこと

広報部 森 繁

11月26日ホタルメイトが集い、世界的なホタル博士の大場信義氏や横須賀ほたるの会のメンバーのご案内で、横須賀市自然・人文博物館、横須賀市野比地区を訪れました。

黒船を思い浮かべる野比の海岸から谷戸の小川を廻ります。海岸線から50メートルも離れるとヘイケボタル、少し上流にはゲンジボタルの自然発生が見られるということです。

三面コンクリートで護岸された小川の水は透明で、川底には泥がたまり雑草が繁茂しています。泥や雑草の除去は徐々に年数をかけて行っているようで、これは生物の移動を考慮し環境の急激な変化を避けるためとのことでした。小川は照葉樹林の谷へと変化していきます。落ち葉がたまって流量が減り、岩からしみでる水たまりとなりました。海岸からすぐ山地が立ち上がっている地形なので、海岸線からわずか数百メートルで源流に達します。雨量が多い時期なら源流はもっと上部になるのでしょうか。

こんなところでどうしてホタルが発生するのかと思われるような川ですが、数軒ある人家も汚染源にはなっていないのでしょうか。農薬の影響も少ないと思われます。アメリカザリガニも侵入しているようには見受けられません。こんな短い川でも条件を整えばホタルが生息し、自然も保全されるという証明でしょう。

過去には6カ所の谷戸でホタルが見られたとのことですが、現在は2カ所の谷戸だけにホタルが発生 ㄦ

こうして我が家の水槽では、カワニナとホタルが平穏に共棲している。

近頃、ホタルも随分とデブになってきた。水槽の下の方眼紙を敷いてみたところ、でかい奴は、18ミリくらいある。この冬は暖冬だから、さなぎになるための土も少し早めに用意してやらなければならないだろうと考えている。

これで夏に羽化するようなことになったらどうしよう。カンレイシャを張った「ミニミニビオトープ」を作らなければいけないだろうか。それともほたるの里へ連れて行って放してやろうかしらと今から皮算用している。



写真：見学会にて（横須賀市野比地区）

して、ホタルの季節に行われる観察会は18回を数え多数の参加で賑わうそうです。（この野比地区には一般廃棄物最終処分場の計画があり、地元の方たちが反対運動を展開され、10年かかって埋め立て計画の中止に至った経緯があります）

野比地区の川と較べて、八千代のほたるの里はどうでしょうか。水質はそんなに悪くありません。カワニナも豊富です。やや明るすぎますが、ヘイケボタルに適した環境と思われます。発生が少ない原因はいくつかあると思われますが、やはりアメリカザリガニのせいでしょうか。クレソンを抜いて調べたところ、小さいアメリカザリガニが3匹見つかりました。ほたるの里にはアメリカザリガニが高い密度で生息しているようです。ザリガニの駆除は大変です。皆さん良い知恵はないのでしょうか。

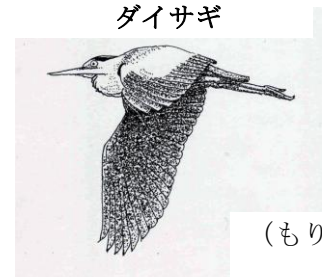
人間も自然界も多種多様、みんなが助け合って生きていくのはなかなか難しいようです。

里のみどころ（4月～6月のころ）

里の周りのたんぼには、水が張られ、田植えの準備が始まります。突然、「ピーチク」とヒバリのさえずりが聞こえて空を見上げると、点のようになってホバリングしている姿が見られます。ダイサギやアオサギも優雅に飛んで、里のトンボ池にも降りてきます。チャンスがよければ、カワセミがヤナギの枝から池へとダイビングする姿を見ることが出来ます。スズメ、ムクドリ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、シジュウカラ、ときには、キジの姿も里で見ることがあります。浅間神社側の斜面林では、「ホーホケキョ」「チャッチャツ」とウグイスの鳴き声や、メジロ、アオジの姿も見られます。



コサギ



ダイサギ

(もり)

ほたるの里のゴミ拾いとバードウォッチング

ほたるの里の3月の作業は、3月3日に里と周辺のゴミ拾いと、バードウォッチングを行いました。今回は、広報「やちよ」にも参加呼びかけをしましたので、初めての参加者が多く見られました。里の中のゴミは、空き缶、ペットボトル、ビニール袋など相変わらず落ちています。里の前の斜面林やたんぼ側にもゴミが多く、準備したボランティア袋が足りなくなりました。ポイ捨てが多くマナーが悪いと実感しました。

里の辺りで見える鳥について、自然観察指導員（ホタルメイト）の説明がありました。里では、ヒヨドリやシジュウカラ、ムクドリを見ることができ、周りのたんぼには、チョウゲンボウの姿や、集団で飛ぶカワラヒワ、ツグミがいました。ヒバリのさえずりも高い空から聞こえ、約15種くらいの鳥を観察できました。今回は見ることができませんでしたが、カワセミもよく里に訪れます。また、斜面林ではウグイスがさえずりアオジなどの鳥の大切なすみかです。里ではネコヤナギの芽がふくらみ、湿地では、ニホンアカガエルもオタマジャクシになり泳いでいました。たんぼのあぜ道では、オオイヌノ

里や周りでは、いろいろな鳥の姿を見ることが出来ます。

里の木では、ヤナギ、ハンノキ、カツラ、ケヤキ等の芽が、日ごとに色濃くなります。足元を見ると、キジムシロ、ヘビイチゴ、タンポポと黄色い花があちこちに咲いています。水の中では、ハンゲショウやヨシの芽が伸び、その中を、少し大きくなったニホンアカガエルのオタマジャクシやメダカがスイスイと泳いでいます。ヘイケボタルの幼虫も5月ころには上陸するでしょう。ホタルの里は、生きものたちの生命がいちあふれています。

(くわはた)

フグリ、ヒメオドリコソウ、タネツケバナなどが咲いていました。

参加者からは、「ゴミ拾いと観察ができて楽しかった！」「あぜ道など歩いて感動した！」「ゴミが多いのにびっくり！」「これからも里の活動に参加したい」など感想を頂きました。

ゴミを拾った後のさわやかな気持ちと、多くの鳥や生きものに出会えた楽しい活動でした。また、生きものがたくさんいる里と周辺の景観がいつまでも残って欲しいと思いました。

(くわはた)



参加者の皆様のご協力により、たくさんのゴミを拾うことができました。ありがとうございました。

19年度のスケジュール

総 会

4/14 (土)	10:00~12:00
----------	-------------

ナイトウォッチング

6/30 (土)	19:00~20:30
----------	-------------

見学会

11/25 (日)	8:30~17:00
-----------	------------

学習会

10/20 (土)	10:00~12:00
-----------	-------------

タイムカプセルイベント

5/12 (土)	10:00~12:00
----------	-------------

環境整備

5/12 (土)	10:00~12:00
6/23 (土)	10:00~12:00
7/28 (土)	9:00~11:00
8/18 (土)	9:00~11:00
9/29 (土)	10:00~12:00
11/17 (土)	10:00~12:00
3/1 (土)	10:00~12:00

ザリガニ釣り大会

8/18 (土)	9:00~11:00
----------	------------

作品展

6/6 (水)~13 (水)	八千代台東南公民館
6/18 (月)~25 (月)	イトーヨーカドー八千代店 2F
6/28 (木) ~7/5 (木)	イオン緑が丘店ローズ広場

「ほたるの里作品展」作品募集

実行委員会では今年で10年目を迎えることを記念して、ほたるの里の作品展を開催します。ホテルやホテルを取り巻く環境、ほたるの里のよいところ、将来の里への希望などあなたの思いを込めた作品をお寄せ下さい。

■ 同時に里山・谷津作品展も行います ■

○テーマ：あなたが思うホテル・ほたるの里

○募集内容：写真はキャビネ〜4つ切り、

絵画はハガキ大〜F6程度、書は半切程度、和歌・俳句

○募集期間：平成19年5月21日(月)〜5月31日(木)まで。台紙に張り付けるか額に入れ、吊り下げ可能な状態にしてお持ちください。

○搬入先：八千代市環境保全課

展示について

○展示期間：①平成19年6月6日(水)から13日(水)
②平成19年6月18日(月)から25日(月)
③平成19年6月28日(木)から7月25日(木)

○展示場所：①八千代台東南公民館
②イトーヨーカドー八千代店 2F
③イオン緑が丘店ローズ広場

○表彰方法：展示期間中、ご来場頂いた方に投票をお願いします。上位入賞者にはほたるの里づくり実行委員会より、表彰させていただきます。

10年前に埋めたタイムカプセルを掘りおこします

1997年11月に10年後の自分に宛てたメッセージを入れたタイムカプセルを埋めました。5月12日の環境整備時に掘りおこします。当時、タイムカプセルに思いを入れた方の方、ご参加をお待ちしております。

ほたるの里への行き方

ほたるの里 周辺地図

交通 東洋バス「勝田台駅発米本団地行」に乗り、米本団地入口で下車します。新八千代病院わきを下ると、ほたるの里です。

【ほたるの里の連絡先】

〒276-8501 八千代市大和田新田 312-5
八千代市ほたるの里づくり実行委員会事務局 八千代市役所環境保全課
Tel 047-483-1151 Fax 047-484-8824 E-mail kankyout2@city.yachiyo.chiba.jp

【編集】

広報部会 事務局